

旧小澤家住宅の取り組みについて

旧小澤家住宅 館長 鷲尾雄二

旧小澤家住宅は、江戸時代後期から新潟町で活躍していた商家・小澤家の店舗兼住宅です。江戸末期から明治末にかけて築造された建物、庭がほぼ当時の姿のまま残り、新潟町の町家の典型的な姿を見ることが出来ます。

1 旧小澤家住宅の活動

新潟市の旧小澤家住宅条例は、第一条で「旧小澤家住宅を活用し、みなとまちとしての本市の歴史、生活文化、観光資源等に関する情報の提供等を行うことにより、みなとまち新潟に対する市民の理解を深め、市民相互の交流を推進し、もって市民文化の向上及び地域の活



写真1 旧小澤家住宅前景

性化に寄与する」と、設置の目的を定めています。これを受けて、当館は次のような様々な事業を行っています。

①展示
常設展示では、小澤家の来歴や館の概要、「みなとまち新潟」の歴史や生活・文化をグラフィックパネルや映像で紹介しています。

企画展は、毎年度十本前後開催しています。小澤家から寄贈された文書や家具、食器、衣類等も活用しながら、小澤家のことや、明治から昭和の人々の生活の様子、文化を紹介する展示（小澤家の



写真2 令和2年度 新潟仏壇工芸展

人々展、屏風展、端午の節句飾り展、着物展、旅行展など）を行ったり、「みなとまち新潟」に関する展示（湊祭展、新潟築港展、大新潟湊展など）、それ以外の展示（水道展、海のゴミ展）など、様々なテーマで企画展を開催しています。

また伝統産業の支援も当館の使命の一つであり、新潟漆器や新潟仏壇の展覧会を度々開催し、新潟の伝統工芸の技術の高さ、製品のすばらしさを来館者に紹介しています。

②講座や体験イベント

掛軸講座や古文書講座、庭木の手入れを学ぶ庭園講習会等を開催するほか、企画展をさらに楽しむための講演会や体験会も開催しています。小学校四年生二〇人ほどが当館に一日泊り「昔前の生活を体験する「旧小澤家住宅に泊まろう」は毎年夏の人気企画です。季節に合わせて、正月飾り、クリスマス飾りの製作体験等も行います。

当館は季節毎のしつらえを大切に、施設を楽しんでもらえるようなイベントも開催しています。建具や屏風の入替え、掛け軸の掛け替え、山野草の展示等を行い、来館者に季節感を大事にした日本の伝統的な住まい方を見ていただいています。そして一年を通して様々な



写真3 オリジナル商品もある物販コーナー

イベントを行い、賑わいを創り出しています。満開の藤棚を眺めながらの藤見煎茶会や、二日にわたり夜までイベントを楽しむ夏至祭。和の風情に包まれながらお酒を味わっていただく「ワインの昼べ」や「秋の酒づくし」等も好評です。「秋の大文化祭」はお座敷ライブや講演、絵画の展示、落語など盛りだくさんの内容で開催しています。

③物品販売

物販も大事な取り組みです。新潟漆器やふるしき等の市販品を扱うほか、当

館でしか買えないオリジナル商品もあります。北前船がデザインされた手ぬぐいやトートバッグ、Tシャツ、「まるこぼろ」(焼き菓子)などは来館記念のお土産として好評です。

2 コロナ禍のなかで

昨年十二月に初確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に拡がりました。感染が拡大する中、当館も大きな影響を受けています。当館では新潟市の定めたガイドラインに従って感染予防対策を行い、参加者の密閉、密接、密集(三密)が生じそうなイベントはこれまで中止したり、規模を縮小したりして開催しています。講座や体験会は定員をほぼ半減して募集しています。四、五月は臨時休館もはさみ来館者が一桁十数人の日が続き、二カ月間の来館者数は前年度比二割に落ち込みました。コロナ対策を行いつつも、積極的に集客をしていかなければなりません。

夏至祭は夜間まで様々な小イベントを盛り込んだ、お酒も飲めるイベントでしたが、今年は、飲食物の販売を中心に夏至の日の昼間だけの「夏至祭ミニ」として実施しました。当日は天気にも恵まれ二七二人もの人出で賑わいました。お



写真4 令和2年8月のおやつの日

客様も本当に楽しそうでした。長らく自粛気分が続く中で、息抜きの重要性を痛感しました。

夏至祭ミニに大勢のお客様からおいでいただいたことに意を強くして、七月から毎月一回「おやつの日」と銘打って、かき氷や焼き菓子、ケーキ、ノンアルコールカクテル、小澤家オリジナルブレンドコーヒーなどを販売し、離れ座敷で飲食できるイベントを始めました。新潟漆器の展示や民謡のゲリラライブも併催し、毎回一〇〇〜二〇〇人のお客様に足を運んでいただいています。物販のお店屋さんの発信力もあって当館に初めて来館されるお客様も多く、宣伝になっています。

国のGO TOトラベルの東京発着の適用開始などで、九月下旬以降お客様

外出に対する雰囲気が大きく変わったように思います。当館への遠来のお客様もだいぶ増えてきて、十月の来館者数は前年度比九割まで回復しました。

3 運営の特徴

当館の運営の特徴として次の点が挙げられます。

①職員が少人数でネットワークが良い
例えば今年の梅雨時のミニ展示「カエル展」は、仕事中的ふとした会話から生まれたものです。小澤家や当館職員、館のボランティアスタッフ、知人に声をかけ、カエルがデザインされたペン皿、手ぬぐい、蒔絵、置物などを持ち寄り、館内に展示しました。予定になかったミニ展示会がコストゼロでたちまち出現し、梅雨明けの展示撤収までお客様に楽しんでもらいました。

②大勢の理解者、協力者に支えられている
企画展の趣旨に賛同してくださる市内の収集家や市民の皆様には様々な貴重な展示物を出品いただいています。今年開催した和時計展、ふるしき展、着物展でも多くの展示物をお借りしました。

また講習会などで、無料やわずかな謝礼で講師を務めていただくこともありますし、当館のボランティアガイドもイベントの運営を手伝ってくれます。こういった協力があって初めて、多くの事業が実施可能になっています。当館の活動に対して理解と愛情をもっていただいていることに心から感謝を申し上げます。

③地域と連携している

下町地域の住民団体「旧小澤家住宅周辺の歴史的町並みを考える会」と連携して、通りのライトアップを行ったり、地元の下本町商店会の実施するイベントに参加したりしています。また先述の「旧小澤家住宅に泊まろう」で食事準備など手伝ってもらっている人は地元の方々です。今年はコロナのため開催を中止しましたが、毎年手伝っていた方から「残念ね」「来年はぜひ開催を」との言葉をいただき、ありがたく、心強く感じた次第です。

4 これからの運営

当館は今年十一月十四日に来館者累計が十五万人に達しました。開館以来九年半での達成で、年間約一万六千人のお客様においでいただいていることになりました。これまで館を支えていただいたボランティア、支援者・協力者、また地域の方々にあらためて厚く御礼を申し上げます。そして足をお運びいただいた市民の皆様や県内外のお客様に心から感謝を申し上げます。

これからも施設をしっかりと守り、貴重な文化財を次代へと良好に継承できるよう努めるとともに、企画展やイベント等を通じて大勢のお客様に楽しんでいただけるよう努力してまいります。

(わしお ゆうじ 館長)